

2010年9月2日
新宿区次世代育成協議会部会資料

しんじゅく若者サポートステーションの活動について

NPO法人ワーカーズコープ
しんじゅく若者サポートステーション

1、地域若者サポートステーションとは

(1) 概要

2006年度より開始した厚生労働省の事業

2010年度は全国で100か所

15歳～39歳までのニート状態にある若者への就労支援を目的とする

地域若者サポートステーションの取り組み内容

個別面談・継続的な相談の実施

支援プログラムの実施

保護者へのサポート

(2) 若者を取り巻く状況の変化

・景気の悪化が若者に影響

新卒採用の減少、安い賃金で活用できる派遣社員・アルバイトへのシフト

・「学校から社会へ」という移行

・若年無業者の数の推移 別紙資料

・ひきこもりの調査(2010年7月 内閣府) 別紙参照

2、しんじゅく若者サポートステーションの活動内容

2008年7月1日開所

実績データ 別紙参照

訪れる利用者像

コミュニケーションが苦手だと感じている

自分の意見を言うことに抵抗を感じる

人が怖い、人とどう付き合ったらいいのかわからない

友人が1人もいない、家族とも関係がうまくいっていない

派遣や短期のアルバイトを繰り返している

学校時代に何かしらのつまづきがある

うつ病、対人不安などの精神疾患を患っている場合が多い

具体的におこなっていること

個別面談・継続的な相談を担当制で実施

初回の面談（インテーク面談）ではまずはじっくり「話を聞くこと」「1人1人の状況に寄り添うこと」を心掛けています。支援の一步は「こちらを信用してもらおうこと」だと考えています。

プログラムの開催・実施

「何かを教えるセミナー」よりも「利用者が主体となれるプログラム作り」を心掛けています。

例) 地域盛り上げ隊

ボランティア活動

サポステカフェ実行委員会

話 time

ジョブトレーニング

サポステ利用者にとって「中間的就労の場」の必要性

「仲間と出会える場所」「仕事を体験できる場所」としての機能

職場体験・職場見学、外部の方にお問い合わせのお仕事講話

外部の企業・お店の開拓

昨年は80社近く訪問しましたが、理解をしてくださるところは2社程でした。その2社は今でもサポステの若者に関わってくださっており、その関わりが若者に支援者では与えることのできない力を与えてくれています。

今後の課題

求人に応募をして、どこかの会社に就職するということの限界

コミュニケーションの苦手を訴える若者が果たして本当にコミュニケーション能力を上げる必要性はあるのか

「仕事の場」を作ることへの挑戦

ハウスクリーニング

銭湯の清掃

3、支援を通して感じる課題

若者の抱える課題

- ・「大人」への不信感
 - 彼らに向き合う「大人」がいたかどうか
- ・失敗体験からの立ち直り、やり直しができなくなっている
 - 「学校」での失敗体験
 - 「たったひとつの失敗」が「人生の失敗」
 - 特に人間関係でうまくいかないことが「失敗」だと感じている
- ・「社会」へ移行できずに「学校」から離れた若者
 - ハローワークなどの社会資源を活用するすべを知らない
 - 「就職する」ことが大きな壁に 入りやすい単発のアルバイト、請負へ

若者支援において必要と感ずること

- ・縦のラインを越えたネットワークの必要性
 - 早期発見
 - 各機関の専門性を活かし、発達段階に応じた支援をおこなっていく
 - 個人情報壁を乗り越える為に
 - 自治体主導での「協議」の場
 - ・地域の方が若者に大きな力を与えるということ
 - 学校以外のコミュニティ
 - ・学校在籍中からの支援
- 学校に外部の支援団体が入ることの意味
- 学校時代から相談スタッフとの関係性を構築しておくことの重要性